

駅南だより

2023年3月号 Vol.78

中古絵本とアートが誘う“通りのポケット”「ギャラリーf」

大門通りの京成線踏切すぐ手前にある「ギャラリーf」。中古絵本の販売、そしてアートの個展が開催されています。もとは「テーラー大山」という仕立て屋さんだった場所。その面影も残り、ギャラリーという“仕立て”がとてもマッチしています。運営しているのは、通りの向かいにある設計事務所・かめ設計室の羽瀨雅己さんと山田晶子さんです。

ギャラリーf 誕生の“きっかけ”

下町風情が残るこの界隈。真間に魅せられ、かめ設計室がここ大門通りに移転したのは2018年。「ギャラリーf」が誕生したのが2021年のことでした。

移転された当初、通りにはシャッターが閉まったままの店が多く見受けられました。お二人はこの街の風情に惹かれ、居を構えたからこそ、そのシャッターをひとつでも開けたいと思います。

さらにこんなことが。かめ設計室は大きな窓が通りに面して開かれており、そこに建築模型が飾られています。移転してすぐ、その窓越しに学校帰りの小学生たちが興味津々に立ち止まり、模型に笑顔に向けていたのだとか。その笑顔に「通りのポケット」というコンセプトの萌芽があったのかも。

ギャラリーf は「通りのポケット」

通勤・通学でスマホを見ながら足早に通り過ぎてしまう人たちの足を留め、日常的に立ち寄れる場所を作りたい、そんな思いから「ギャラリーf」は生まれました。コンセプトは「通りのポケット」。「ギャラリーf」では、個展が開催されていない時に「ギャラリーfのちいさなコトノハブックス※」として、かめ設計室スタッフが中古絵本を販売しています。数十冊の絵本たちが面展示され、一冊一冊が表情豊かに語りかけてきます。絵本は入れ替わってゆきます。入れ替わった“新しい顔”にすぐに気づくのは子どもたち。“懐かしい顔”に思わず手を伸ばす大人たち。絵本を介して世代を越えた語らいが生まれるすてきな本棚がここにあります。

今、新しい「通りのポケット」がポツポツと開き始めています。古くもまた新しいこの道筋を散策し、そして「ギャラリーf」でちょっと足を留めて、個性あふれる絵本やアートに出会いに行ってみませんか。

ギャラリーf | 千葉県市川市市川1丁目17-13



※ オンラインの中古絵本屋『コトノハブックス』さんからの委託販売で、月に30冊ほど選書された絵本を販売している中古絵本屋さんです。

ギャラリーfの
Instagramはこちら！



市川今昔物語

時代に合わせて変化してきた市川の、
今と昔を比べてみましょう。

真間山下バス停から東の小道に入り100mほど歩くと、公益財団法人市川市文化振興財団が運営している木内ギャラリーがあります。もとは木内重四郎氏により大正3年に造営された別邸でした。平成16年に洋館部分が再築され、復元されました。木内重四郎氏(1865~1925)は、上総国武射郡白栲村(現千葉県山武郡芝山町)に生まれ、農商務省商工局長などを歴任後、貴族院議員、京都府知事を務めました。

木内ギャラリーは近代建築様式として歴史的価値の高い和洋折衷の建物です。和洋折衷様式とは近代日本に建てられた和・洋の建築要素が折衷した建物のこと。木内ギャラリーは、建築としての趣向の面白さ、その佇まいの心地よさを、目に肌を感じながら、アートや音楽が楽しめる場所なのです。木目調の玄関ホール。クリーム色の明るい壁紙の応接室は飾り戸棚とマンテルピースに大理石を使用した暖炉が。書斎は飾り戸棚と明るい緑色のタイルのマンテルピースで装飾された暖炉があり、その先には、窓から庭の木々の緑が鮮やかに覗く、日の光も明るい、白基調のサンルームがあります。時の記憶がゆらめく空間の居心地の良さに、ふと時を忘れます。市川の近代を探りに是非、訪れてみてください。

木内ギャラリー | 千葉県市川市真間4-11-4 TEL:047-371-4916



上から外観・書斎・バラнда。大正浪漫溢れる建物です。



館長の本棚

館長が選ぶおすすめの本を、
コラムとともに紹介します。

図書館=ハルキワールドに迷い込め

図書館の棚の本の並びは「日本十進分類法(NDC)」をもとに、その番号順に並んでいます。NDCとはあらゆる「知」を10類に分類して、さらに各類を10綱に、10目にと縦割りに系統的・体系的に展開するシステム。でも一旦本が棚に配列されると不思議なことが起こります。

「電気関係の棚の向こうに実用書の棚があり、さらに隣にポーランド史の棚がある。それらは通路が二つ三つ隔てられただけなのに、世界が隔絶されているわけです。こういうパラレルな世界がすきですね。」とは村上春樹さんの発言(※)。

制度化された「知」の体系の壁で隔てられたものが、目の前でパラレルに立ち現れる。村上さんにとって図書館は“異界”への入り口。そんなパラレルワールドはさらに僕自身の謎(深層=異界)へと誘い込みます。ああ、もうすっかり『世界の終わり』とハードボイルド・ワンダーランドの世界。

村上さんの短編作品『図書館奇譚』も図書館の地下という異界から羊男や謎の美少女の力を借り、新たな日常へ脱出する冒険譚。そこから発展した世界が『海辺のカフカ』。さらに最新作『街とその不確かな壁』へ。どれも図書館が舞台として登場します。

春樹ワールドをより深く体感するためにも、図書館の迷宮を逍遙してみてもは。ちなみにウチでは脳みそチュウチュウ吸ったりしないから安心してね。

※『夢を見るために毎朝僕は目覚めるのです』『『海辺のカフカ』を中心に』より(文藝春秋 B910.26/ム 中央所蔵)



『カンガルー日和』
村上 春樹／著
講談社
B913.6/ム



『図書館奇譚』
村上 春樹／著
新潮社
913.6/ム

『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド 上・下』
村上 春樹／著 新潮社 B913.6/ム/1-2

『海辺のカフカ 上・下』
村上 春樹／著 新潮社 B913.6/ム/1-2

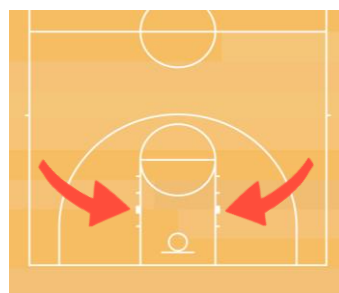
司書たちの休息

駅南の司書たちの日常や、好きなこと、おすすめなどを伝えます。

趣味のバスケットは、ミニバスを含めれば競技歴は15年以上経つ。5～7号球の一般的なバスケットボール以外にも、大きさは6号球で重さが7号球というボールでのプレー経験もある。人生の半分はバスケットに関わってきて、バスケットのことなら分からないことはほとんどないだろうと思っていたが、実は最近になって初めて目にした用語がある。

それはコート上の「ライン」の1つだ。バスケットコートには沢山のラインが引かれており、一見何のための線なのかわからないものもあるが、もちろんその全てにルールに沿った役割がある。しかし先日、名称不明の不思議な線を発見した。

文章では説明が難しいので、右の図で確認してほしい。フリースロー時のリバウンダーの位置を区切っている、両サイドにそれぞれ4つずつある線のうちの、下から2つ目の線（*➡）。リバウンダーの位置を区切るという役割には違いないのだが、なぜかこの線だけ他の3つより長く引かれているのである。その場でバスケット仲間たちに尋ねまわったが、名称もそこだけが長い理由も誰も分からず…。そこでJBAの公式サイトで競技規則をあたって見たところ、名称の記載があった。（気になる人は調べてみてほしい）けれども、そこだけが長い理由の説明はなく、結局分からずじまい。



知らなくても困る事ではないが、長年プレーしてきたのに少しも気に留めていなかった自分に、私のバスケット愛はそんなものだったかとほんの少しショックだった。

この件に関してご存知の方がいらっしゃいましたら、是非ご教授ください。

展示・イベント報告



とっさの時に役立つ 筋力アップの知識と体操(2月19日)

災害の避難時においても必要になる筋力を日常生活の中でつけられるよう、和洋女子大学の先生・学生さんと一緒に実技をおこないました。(11名が参加)



新春えきなん寄席(1月8日)

毎年恒例、大人気のえきなん寄席。今年は久しぶりにホールで開催されました。笑い溢れる楽しい一年の幕開けとなりました。(38名が参加)



えきなん冬のおたのしみ会(12月18日)

「劇団員の火」の皆さまによる人形劇を今年も開催。お子さまたちに『さんびきのこぶた』、『ひよこのさんぼ』をお楽しみにいただきました。(26名が参加)

編集後記

巻頭の「ギャラリーf」の記事を読んで、興味があるものに近づいたり、展示の変化に気づく子どもたちの様子に、図書館でも似たような光景があるな、と思いました。総武線の電車が通ると窓辺にかけよる子、自動貸出機など新しい機械に入れ替わった時も、子どもたちが一番に気づき、そして操作も難なくこなし、お父さんやお母さんに教えてあげている誇らしげな姿。「いつものこと」と見過ごさず、変化したことに立ち止まって受け入れる柔軟さを、忘れずにいたいなと思いました。(副)

市川市市川駅南口図書館 (指定管理者 (株)ヴィアックス)

〒272-0033 市川市市川南1丁目10番1号 I-link タウンいちかわ ザ タワーズ ウェスト3階

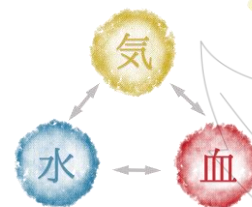
【TEL】 047-325-6241 【HP】 <http://www.ekinan-lib.jp>

こころとからだの

理想的な平熱は36.5℃と言われますが、現代人はむかしに比べ、0.5～1.0℃ほど体温が低いと言われています。「冷え」は肥満、むくみ、免疫力の低下など、多くの身体不調となります。いつも身体が冷えている、平熱が35℃台の人は、身体を温める「温活」を始めましょう。



東洋医学では、身体は「**気**・**血**・**水**」という3つの要素で成り立っていると考えられています。この3要素が身体の中をうまく巡ることによって、健康が維持できます。そのため、「気・血・水」のいずれかが不足、偏る、滞ることで身体に不調や病気が起こりやすいとされています。



「**気**」は、元気の「気」、病気の「気」というように、生体の持つエネルギーそのものを指します。「**血**」は、主に血液を指します。体のすみずみをまわって、組織や器官に栄養を運びます。「**水**」は、汗、唾液、涙、尿、胃液、リンパ液など、血液以外のすべての体液をさしています。

冷えは、この「気・血・水」のバランスが崩れた状態を指し、これらのバランスを整え、巡りをよくすることが健やかな身体を維持する秘訣です。冷えがひどくなると不眠や倦怠感、集中力欠如などあらゆる不調を引き込むため、まずは「冷えの原因を知り、冷えを克服すること」が大切です。



冷えの原因は？

- ①体内で熱が作られない
 - ②作られた熱が全身を巡らない
 - ③体内の熱が逃げやすい
- といったことがあります。

冷えを克服する「温活」

- ①筋肉をつける ➡ 筋肉を増やせば、基礎代謝が上がり、身体を効率良く温められる。
- ②寝起きに白湯を飲む ➡ 内臓が温まり働きが良くなる。
- ③熱すぎない温度で入浴をする ➡ 体温を効果的に上げる。
- ④ウォーキングなどの運動を習慣づける ➡ 血の巡りが良くなる。
- ⑤お菓子よりはアーモンドやカシューナッツなどのナッツ類を食べる ➡
お菓子に使われる白砂糖は身体を冷やす。ナッツはたんぱく質が多く栄養価が高い。
- ⑥体温を上げる食品を取る ➡ 人参、蓮根、ごぼうなど、地中で育つものは身体を温める。

温



活